

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



6月号 発行 平成27年6月25日

JAいわき市イチジク部会 現地栽培指導会が開催されました！

5月19日(火)、四倉町玉山において、イチジク栽培指導会が開催され、四倉、大浦、夏井地区から生産者20名が出席しました。

イチジク栽培指導会は、生育に合った作業内容の確認と部会代表者の優良技術習得を目的に毎年開催されています。

今回の指導会では、いわき農林事務所から、現在の生育状況と芽かき作業方法、病害虫防除について説明しました。

また、イチジクは根域が浅いため、今年のような干ばつ天候の場合、かん水や敷きわらマルチを施す等の水分保持対策の実施を指導しました。

今年、これまでの指導会での栽培技術の成果を踏まえて、いわき名産の生食用品種「榎井ドーフィン」や加工用品種の安定生産を目指していく予定です。



(芽吹いたばかりのイチジク)



(現地栽培指導会の様子)

(農業振興普及部)

ホッキガイの試験操業について

6月4日(木)、いわき市の久之浜地区、四倉地区、沼之内地区において、ホッキガイの試験操業が始まり、初水揚げがありました。今年、1地区当たりの目標水揚げ量を昨年の200kgから400kgに増やしたことにより、3地区合計の初漁は、昨年よりも400kg多い915kgの水揚げとなりました。水揚げされたホッキガイは、いわき市中央卸売市場をはじめ、福島市、郡山市、会津若松の各公設市場へ出荷され、昨年と同程度の350~400円/kgの価格で取引されました。

ホッキガイは夏に旬を迎え、美味しい時期となります。生の刺身やホッキ飯で食べるのが一般的ですが、熱を加えるとさらに甘味が増しますので、天ぷらなどにしても大変美味しくいただけます。水揚げ量が増えたことによって、いわき市内のスーパーなどでも見かけることが多くなると思いますので、旬のホッキガイをぜひ、ご賞味ください。

※ホッキの殻のむき方や調理方法はこちらを参考に「福島県相双漁協相馬原釜支所(青壮年部)ホームページ」(<http://www2.ocn.ne.jp/~haragama/>)



(水揚げされたホッキガイ)



(ホッキガイの刺身)

(水産事務所)

いわき地区広域農道促進期成 同盟会総会が開催されました！

5月15日（金）、いわきワシントンホテルにおいて、広域営農団地農道整備事業「いわき地区」の整備促進を目的に活動している「いわき地区広域営農団地農道整備促進期成同盟会」の総会が開催され、いわき農林事務所では、これまでの整備状況、今後の事業計画や今年度の工事内容について説明を行いました。

当該地区では、市北部の中山間地域の農業振興や地域住民の生活向上を図るため、平成3年度から小川町と四倉町をつなぐ重要な路線として道路整備事業を実施しています。総延長11kmのうち、小川町福岡～小川町柴原の4km区間は、既に通行可能となっています。

四倉町側の区間で残っている大規模な工事として、仁井田川に架かる長さ157mの橋梁工事がありますが、平成24年度から工事が始まっており、平成27年度には、橋台1基及び橋桁架設工事を予定しています。

一方、小川町側の残る工事区間には、橋梁工事や大規模な土砂掘削への対策などが必要となるため、詳細な調査・設計を実施しながら工事着手に向けて準備しているところです。

いわきの農業振興及び地域振興のため、いわき農林事務所職員一丸となって事業を進めてまいります。



(整備促進期成同盟会総会の様子)



(仁井田川橋梁工事 A2橋台実施状況)
(農村整備部)

「企業の森林（もり）づくり」 ボランティア活動が実施されました！

5月23日（土）、平下大越地区において、昨年11月の第1回植樹活動に引き続き、2回目の植樹活動が行われました。

(株)みずほフィナンシャルグループは、沿岸被災地の復興を応援するため、平成25年4月に福島県、いわき市、地元大越共有山林組合と「企業の森林（もり）づくり協定」を締結し、津波で甚大な被害を受けたいわき市の海岸防災林の再生に取り組む「みずほの森プロジェクト」を展開しています。

今回も、県内だけでなく、首都圏や東北各地から社員やその家族143名のほか、地元大越共有山林組合員やいわき市職員が参加しました。

植樹の指導には、いわき農林事務所といわき市森林組合があたり、当日は天気に恵まれたことと、前回の参加者から初めての参加者への助言もあって、作業は予定よりも早く終了しました。

参加者のみなさんは、自分たちが植樹した4,500本のクロマツを見て、感慨深げな様子でした。

今後は秋に3回目の植樹を行い、来年以降、植栽木の保育を予定しております。



(植樹の様子)



(植樹された風景)
(森林林業部)

草野小学校で「田んぼの学校」が始まりました！

5月25日（月）、いわき市立草野小学校において、「田んぼの学校」が開校され、5年生児童80名が田植えに挑戦しました。

田んぼの学校は、県の「ふくしまの農育推進事業」により、地域の未来を担う子どもたちが『農業・農村地域の大切さ』や『環境の大切さ』、『食・命の大切さ』について理解し、豊かな感性を育むことなどを目的とした体験型学習です。

同校では、総合学習等の一環として、25年間地元農家やPTA会員らと農業体験学習に取り組んでおり、今年度からスタートした田んぼの学校事業と連携することによって、活動をPRし、農業の大切さや収穫の喜びを味わってもらうこととしています。

地元農家の富岡正治さんから田植えのやり方について説明を受け、もち米の苗（マンゲツモチ）を植えました。

初めて水田に入る児童も多く、初めは恐る恐る植えていましたが、地元農家の方による手厚い指導により、夢中になって田植えを楽しんでいました。

今回植えた苗から収穫したもち米は、活動最後の「収穫祭」で使用し、地域の方を交えて餅つきを行う予定です。



（富岡さんによる田植えの説明）



（5年生皆でハイ・チーズ！）

（農村整備部）

いわき地方畜産経営基盤強化推進協議会を開催しました！

5月20日（水）、県いわき合同庁舎において、いわき地方畜産経営基盤強化推進協議会を開催しました。

原発事故から4年が経過し、放射性物質に汚染された農業系廃棄物の一時隔離やモニタリング管理、飼養管理の徹底により、畜産経営の環境は改善傾向にあります。

しかし、牛枝肉価格は震災前の水準までは回復しているものの、今もなお全国平均より低い水準で推移するなど、生産基盤の再構築には多くの課題が残されています。

会議では、一時隔離保管した農業系汚染廃棄物の処理や堆肥利用の推進、自給飼料生産対策、牧草・飼料作物モニタリング検査、酪農・肉用牛の増頭対策について、今後も関係機関・団体等と連携し、取り組んで行くことを確認しました。



（協議会の様子）

（農業振興普及部）





「第1回ふれあい農業講座 苗植会」が開催されました！

5月26日（火）、いわき市立玉露保育所において、いわき農業青年クラブ連絡協議会は、園児61名とともに「第1回ふれあい農業講座 苗植会」を開催しました。

本講座は、園児達に農業や農作物を身近に感じてもらうために毎年開催しており、今回は、ミニトマト、ナス、ピーマン、オクラ、キュウリ、サツマイモ、カボチャの苗の定植を行いました。

クラブ員が園児達に野菜の苗を見せると、「これ何の野菜ができるの？」「（茎が）紫色しているね！」などの好奇心溢れる声が上がりました。

また、普段食べているトマトなどが育てて実を付けることを説明すると、「どうやって実がつくの？」などの質問もありました。園児達は、「毎日お水あげるね！」と話し、収穫を楽しみにしていました。

クラブ員は、園児達の喜ぶ顔を見て、食を支える農業を職業としていることに改めて誇りを感じるとともに、園児達に作物を育てる楽しさや食の大切さを学んで欲しいと話していました。



（サツマイモの苗の定植の様子）



（「何の野菜か分かるかな？」）

（農業振興普及部）



「食ビジネス&6次化推進 フォーラム」の開催！

6月1日（月）、いわき産業創造館（ラトブ6階）において、福島県中小企業団体中央会及びいわき信用組合が主催する「食ビジネス&6次化推進フォーラム」が開催されました。

本フォーラムは、いわき農林事務所も共催し、食ビジネスと地域産業6次化を組み合わせることにより、新たなビジネス創出やいわきの農林水産業の再生に役立てることを目的として開催されました。当日は、農林漁業者や商工業者、行政関係者など70名以上が参加しました。

はじめに、(株)タンク代表取締役増田紀彦氏より「食ビジネス&6次化は“中食市場”を掘り起こせ！」と題して基調講演があり、世帯構造・女性就労・食の嗜好などの変化に伴い、「中食（※）」利用者が増加しており、エンゲル係数が上昇傾向にあるとの説明がありました。

また、将来的にも中食向け調理品の需要増加が期待できることから、調理食品市場への取組はビジネスチャンスであるとの話がありました。

続いて、第2部では関係機関より6次化関連施策等の説明が行われ、第3部の個別相談会では、参加者が商品開発等について積極的に講師に相談するなど、活発な意見交換の場となりました。

今後もいわき農林事務所では、こうした取組を支援するとともに、地域産業6次化に関する情報等を発信してまいります。

※中食（なかしょく）：家庭外で調理した食品を、家庭で食べること。



（講演は参加者との対話形式で行われました）
（企画部）

いわき市営芝山牧野の 開牧式が開催されました！

5月15日（金）、いわき市営芝山牧野において、畜産農家やいわき市職員、いわき農林事務所職員が出席し、開牧式が行われました。

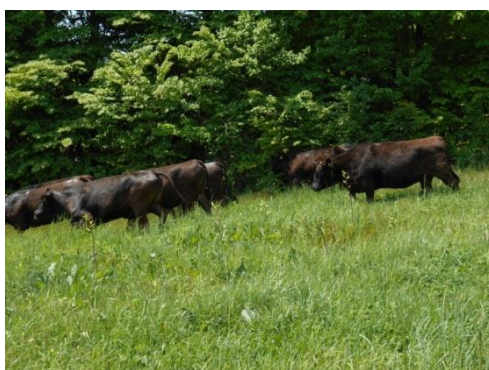
当日は、繁殖雌牛12頭が放牧されました。放牧は、牛のストレス軽減や健康増進効果があり、今年は11月30日まで行われる予定です。

芝山牧野では、震災前は80頭が放牧されていましたが、放射能汚染により、草地の利用が制限され、現在は8牧区あるうちの1牧区のみでの放牧となっています。

今後、モニタリングを進めて利用できる牧区を増やしていく予定です。



(テレビ局から取材を受けている様子)



(放牧された牛)
(農業振興普及部)



「ふれあい農園開園式」を 開催しました！

6月6日（土）、夏井地区のほ場において、いわき農業青年クラブ連絡協議会主催による「ふれあい農園開園式」が開催されました。

本協議会は、野菜づくりを通して市民に農業への関心と理解を深めていただくため、一般消費者を対象として「ふれあい農園」を開催しており、今年は8家族が参加しています。

開園式では、簡単な野菜の健康診断方法や苗の植え方、摘心・整枝の仕方を説明し、その後、クラブ員が参加者のほ場を巡回し、栽培のアドバイスをを行いました。

参加者からは、「実際に野菜を見て貰えて良かった」「肥料の種類や量、農薬を教えて貰えて助かる」との声がありました。



(クラブ員のほ場巡回の様子)



(農園の野菜！立派な紫キャベツ)
(農業振興普及部)



林業活性化センター通常総会が 開催されました！

5月29日（金）、いわきワシントンホテルにおいて、磐城流域いわき地区林業活性化センター第7回通常総会が開催されました。

林業活性化センターは、民有林・国有林を一体として、森林整備から素材生産・加工・流通までの体制整備等の取組を推進し、地域の森林・林業の活性化を図ることを目的として設立された組織です。

総会では、今年度の事業として、林業労働力及び林業技術の向上対策のための労働安全講習会、木材の利用促進に向けた講演会や先進地調査などの計画が認められました。



(総会の様子)

(森林林業部)



いわき地方の農林水産物 モニタリング検査結果

農林畜産物の放射性モニタリング検査結果

福島県が行った、いわき地方の5月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果（表1）をお知らせします。

(表1) 農林畜産物の検査結果（5月末現在）

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
	9品目	3品目(※1)		
20検体	限界検出値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超過の検体	24検体
	2検体	2検体	0検体	

※1：もみじがさ(しどけ)(野生)、うど(野生)、うわばみそう(野生)

検査した12品目28検体のうち、9品目22検体において、放射性セシウムは検出されませんでした。内訳は（表2）のとおりです。

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

コマツナ 1、葉ネギ(施設) 1、くさそてつ(ごみ)(野生) 3、ふき(野生) 2、菌床しいたけ(施設) 4、菌床なめこ(施設) 3、エリンギ(施設) 1、牛肉 3、原乳 4

また、もみじがさ(しどけ)(野生)、うど(野生)、うわばみそう(野生)については、それぞれ1～2検体に100ベクレル/kg以下の放射性セシウムが検出されました。内訳は（表3）のとおりです。

(表3) 基準値内で検出された品目と検体数

	もみじがさ(しどけ)	うど	うわばみそう	
検体数	2	3	1	
(うち基準値内)	(2)	(2)	(1)	
内訳	100ベクレル以下(最大値)	2 (12.0ベクレル/kg)	2 (12.0ベクレル/kg)	1 (34.0ベクレル/kg)
	検出限界値以下	0	1	0

5月31日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、（表4）のとおりです。

(表4) 出荷制限及び出荷自粛品目（5月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限(7品目)	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、こしあぶら、たらめ(野生のものに限る)
出荷自粛(1品目)	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
	畜産物	—
出荷自粛(1品目)	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

(企画部)

海産魚介類の緊急時モニタリング検査結果

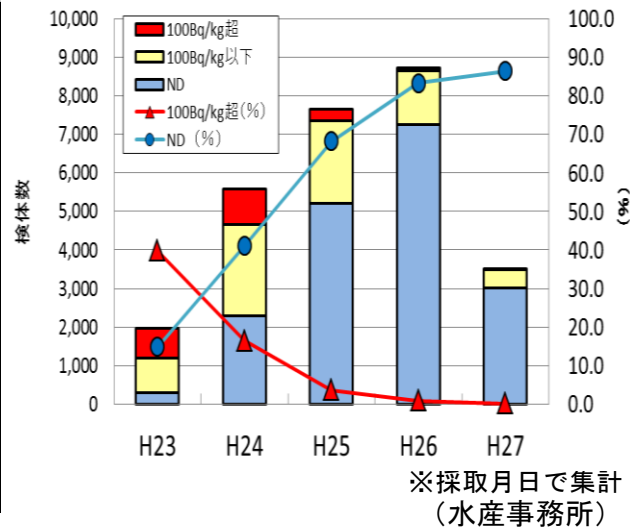
福島県沖で採取された海産魚介類への放射能の影響は、時間の経過とともに着実に低下しています。

平成27年1～5月までに基準値の100ベクレル/kgを超えたものは4検体で、全体の0.1%でした。

ただし、3月7日以降に採取された海産魚介類で100ベクレル/kgを超えたものはありませんでした。

平成23年以降のモニタリング検体数と割合

年		100Bq/kg超	100Bq/kg以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	473	3,019	3,496
	割合(%)	0.1	13.5	86.4	100.0
計	検体数	2,065	7,152	17,524	26,741
	割合(%)	7.5	26.5	65.9	100.0



いわきの情報をお知らせします！

福島県いわき農林事務所

いわき市平字梅本15番地(福島県いわき合同庁舎3F)
TEL.0246-24-6197 FAX.0246-24-6196

mail kikaku.af07@pref.fukushima.lg.jp
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/

Q いわき農林事務所

検索

いわき
市内

『グリーン・ツーリズム』 関連施設の紹介

今月号は、田人町の宿泊のできる「貝泊コイコイ倶楽部」をご紹介します。

ここでは、農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動である「グリーン・ツーリズム」が、貝泊コイコイ倶楽部により実施されています。

貝泊コイコイ倶楽部では、「農産物直売所・山ぼうしの家」や宿泊施設「コテージ星の森・ベガ&アルタイル」の運営、バーベキュー体験、自然観察会をはじめとする各種自然体験型イベントの開催など、貝泊地区の魅力を発信する様々な活動を随時行っています。

今月は、6月28日(日)に田人町貝泊地区にある「桜の公園」で桜の下刈り整備を行います。

ぜひ自然に囲まれた田人町に足を運んで、地元の方と一緒に体を動かし、リフレッシュしてみてください。



※お出かけの際は、事前にお問い合わせください。

貝泊コイコイ倶楽部

- いわき市田人町貝泊字桐木12
- TEL.0246-68-3354
- FAX.0246-67-5172
- HP.http://www.kaikoi-club.net/index.html

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日(7月は8日(月))に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。
なお、店舗の都合により内容は変更される場合がありますのでご了承ください。
また、営業日(メニューの実施日)については、事前にご確認ください。

○ 北の屋そばや(植田町)

《地産地消メニュー》ぶっかけうどん・そば、海老天丼、海老おろしうどん

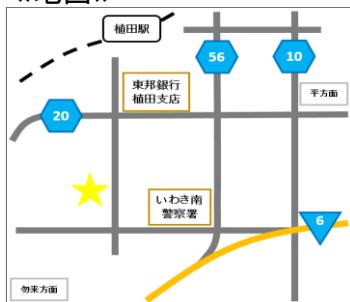
《説明》福島県産の食材をできるだけ多く使用しています。

《店舗の連絡先》

住 所:いわき市植田町本町1-10-1

電話番号:0246-62-4752

《地図》



《店舗の写真》



(北の屋そばや)

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1) モニタリング情報検索
 - (2) 出荷制限等一覧表



ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース